

平成26年度自動車事故対策機構交通遺児友の会写真コンテスト審査選評

日本大学芸術学部写真学科

教授 鈴木孝史

「写真」には「撮る楽しみ」や「見る楽しみ」など楽しみ方はいろいろあります。それらに共通して目を引くものは被写体、つまり“写すもの”“写されたもの”でしょう。“写真を撮る”ことを考えると、最近は携帯電話やスマートフォンできれいな写真が撮れるようになりました。また、フィルムの時代とは違い、記憶メディア（CF・SDカードなど）の容量が大きければかなりの枚数の写真が撮影できます。たとえ撮影に失敗をしてもその画像を消去してしまえば無限に撮れ、記録することができるようになりました。さらにピント合わせの自動化や手ぶれを押さえる機能など撮影技術の発達のおかげで幼児からお年寄りまで写真撮影をする人々が増えました。今回は小さなお子様たちの応募作品にも面白い作品がありました。日頃私たち大人が気付かない、あるいは忘れてしまったアングル（見方）で撮影をされたものでした。全ての応募作品は、撮影された方々が写したかったモノ・コトに対して素直に、それぞれの思いを込めてカメラを向け、シャッターを切った作品であることは十分にわかりました。その中で、授賞作品には、更に、それ以上のモノ・コトを感じさせてくれるものがありました。その選出の理由はいくつかありますが、審査員の目を引いたポイントはシャッターチャンスと画面構成の良さでした。

平成26年度自動車事故対策機構交通遺児友の会写真コンテスト審査選評

国画会写真部会員

丸山 派留雄

5歳ぐらいの皆さんから、ファミリーの方々迄、多数の応募作品を拝見いたしました。特に感心したのは、何を表現するのか「主題」がはっきりしている事です。トンボの写真など近距離での撮影は、思いがよく伝わります。又、電車の運転手を真後ろから撮った作品は、丸い帽子と大きな肩、思いきったアングルでの作画は印象に残ります。これからも、自然を観察する眼を養い、絵画や音楽などからも、イメージをふくらませる力を養って下さい。

「こいのぼりつかまえた！」 織田 開士

大きなこいのぼりですね。子供さんが、つかまえてたのしそうです。風が吹いたら一緒に天まで上がるのではと思ってしまう。五月の空に高く泳ぐさまを見たくまりました。緋鯉がアクセントになり作品が一段としまって見えます。

「ぼくのおじいちゃん」 金城 賢征

画面いっぱい大きなトラック、のみ込まれそうな迫力です。油にまみれた作業服と大きな長靴のおじいちゃんが、車の修理をしている姿をローアングルで撮影。だいたいなおじいちゃんがひとときわたくましく表現され、思いがしっかり伝わります。

「大好きなカメ」 當山 千星

大きな手を力いっぱい広げ、水面にちょこんと顔をもたげてけんめいに泳ぐカメ。見ていると愛らしく、心がいやされます。これからも頑張れと応援したくなります。たのしい写真です。

「稲ぐい」 井上 真佑

山里の秋の原風景ですね。刈り取られた稲わらが修行僧の様に見えてきます。みのりの秋の収穫のよろこびがきこえてくるようです。周りの余分な所をカットし、大変まとまった作品になりました。

「田んぼ道」 匿名希望

水面にうつる空と家並みが、シンメトリックで上下どちらが現実かと迷うような、ふしぎな魅力があります。昼と夕暮れの狭間、おもしろい時間をねらいましたね。カメラアングルもしっかり水平がとれて、美しい作品です。